

平成28年度第1回厚岸町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成28年12月22日（木） 15時00分～16時30分

2 場 所 厚岸町役場庁舎2階庁議室

3 出席者

(構成員)

町 長	若狭 靖
教 育 長	酒井 裕之
教育委員	田辺 正保
教育委員	濱 秀利
教育委員	平良木宣行
教育委員	森脇 直美

(事務局)

総務課

課 長	會田 周二
総務係長	水野 博嘉
主 任	岡村 健太朗

(教育委員会事務局)

管理課長	高橋 敏晴
管理課長補佐	渡部 貴志
指導室長	滝川 敦善
生涯学習課長	桂川 実
体育振興課長	高橋 政一

4 傍聴者 0人

5 内 容

○司会（総務課長）

ただいまから、平成28年度第1回厚岸町総合教育会議を開催いたします。  
始めに、若狭町長から、ご挨拶をいただきます。

○町長

皆さん、こんにちは。

師走を迎えまして、皆様方には何かと御多忙の中、総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

御承知のとおり新教育委員会制度が発足されましてから、厚岸町では初めての総合

教育会議となったわけであります。

先の臨時町議会におきましては、私から酒井教育長をご提案させていただき全会一致をもって承認されたところであります。

長年、田辺前教育委員長におかれましては、厚岸町の教育行政の推進のために大変なご尽力をいただいたわけでありたいと存じます。改めて心からお礼申し上げます。

酒井教育長につきましては、よく御承知のとおりでございますので、省略させていただきます。

ただ、新教育長と申しますのは、私と副町長、そしてまた酒井教育長は厚岸町の三役の構成の中に入るわけでありまして、厚岸町の教育行政の責任も重くそしてまた、今までの経験を踏まえて、さらに厚岸町の人材の育成を始め、それぞれの教育に関する重要な課題については、積極性をもって対応していただくであろうと、そのように期待をいたし、また町長といたしましては、常にお話をしておりますが、まちづくりは人づくりであるという信念を持ってございます。

そういう意味におきましても、教育委員会が果たす使命と責任益々大きい時代を向えている、そのように考えているわけでありたいと存じます。

どうか皆様方委員におかれましても、酒井教育長を中心として、厚岸町の教育振興の為に、色々と御指導御鞭撻を賜りますことを、心からよろしくお願い申し上げます。

今日の協議事項につきましては、配布のとおりでございます。第5期厚岸町総合計画に基づく第8次の実施計画これは、予算にあたりましての3年間における事業計画であります。私のもとで決定させていただいたところでありたい。その事についての教育関係における年次計画を発議させていただきたい。

さらには、平成28年度における教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価報告について委員さん方と協議をさせていただきたいと思っております。

また、三つ目には学校図書館における活用教育事業についても皆様方と協議をさせていただきたいと、そのように考えますので、どうか委員の皆様、雪も降っておるようでございます。速やかな協議のもとで本日の会議を終わらせていただきたいと思います。そのように思いますので、忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。

#### ○司会（総務課長）

ありがとうございました。

本日の会議の進行につきましては、本会議の議長であります、町長に進めていただきます。よろしくお願いいたします。

#### ○議長（町長）

それでは、これから進行役を務めさせていただきます。さっそく協議事項に入ります。先ほども説明いたしました「(1) 第5期厚岸町総合計画に基づく第8次実施計画について」を提案させていただきます。

事務局の説明をいただきます。

### ○事務局（教育委員会管理課長）

「第5期厚岸町総合計画に基づく第8次実施計画について」でございます。平成29年度から平成31年度の3カ年実施計画につきまして、町長より内示がありましたので、私から管理課所管の部分をご報告申し上げ、その後、生涯学習課、体育振興課と続いてまいります。各事業の内容につきましては、既に教育委員会の会議で説明済みでありますので、要望事業の一覧にて内示の結果を中心に説明して参りたいと思います。

■(1)説明・協議事項「(1)5期厚岸町総合計画に基づく第8次実施計画について」  
配付資料1により、事業内容について説明

### ○議長（町長）

第5期厚岸町総合計画でございますが、各委員の皆様ご承知のとおりと思いますが10年計画であります。その10年計画を前期と後期に分けての事業を推進をさせていただいているところであります。即ち前期の実行状況を総括いたしながら、後期に向かってその計画を見直すということでございまして、今、後期の時代を向え、あと残すところ3カ年となっているわけでございます。私自身町長として来年の7月12日までの任期であります。色々と教育問題を含めて町民と約束をしたことについての公約の実現をするという意味も含めた3次計画でもあるわけでもあります。

その意味で財政厳しいながらも教育委員会の皆さん方の意見を拝聴しながら3次計画の登載をさせていただいたということでございます。

今、説明もありましたけれども、「教育用携帯型情報端末導入」番号で言いますと4番であります。これは私も世界的な問題も含めてそういう傾向にあるということは、十分に理解をいたしておるところであります。

しかしながら、既に太田小学校、中学校に導入をさせていただいているところでございますが、その総括ができない。また、その効果がどうであるかということが、未だに我々の方に答えとして返ってこない、そういう中で、次期高知小中学校も含めた中で、導入するということは、いかななものかということを考えながら、まず、太田小学校、中学校の効果を色々と確認し、総括していただいて、さらに、予算要求をしていただきたいという意味を込めて、今回は見送っておるわけであります。

以上であります。委員の皆様方から何か意見がありましたらと思います。

### ○濱委員

携帯型情報端末導入事業なんですけれど、いち早く太田小学校、中学校に導入されたことは、多分、その辺の市町村でも導入すらしていない段階で、いち早く導入したことは、凄く良かったのではないかと思います。

教育を取り上げて、厚岸町で教育・人材育成の為に頑張っていくという事については凄く効果があった。(いち早く導入したことに効果があった。)

ただ、導入したばかりなので、どういう状況かしっかりと検証ができていない点はあるかと思うので、その辺しっかりと検証できた段階で、いち早く他の学校にも広が

っていくような繋がりができたらいいと思っております。

○議長（町長）

私もそのように考えております。

その他、何かございませんか。

（意見なし）

○議長（町長）

それでは、続きまして「(2)平成28年度教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価報告書について」を提案させていただきます。

説明をいただきます。

○事務局（教育委員会管理課長）

- (1)説明・協議事項「(2)平成28年度教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価報告書について」

配付資料2により、報告書の組立ての状況並びに事務評価会議による評価の概要について説明

○議長（町長）

ただいま、事務局から説明がありましたが、「平成28年度教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価報告書」につきましては、平成27年度の教育執行方針や総合計画及び予算執行状況等の事務事業について有識者で構成されている教育事務評価会議において、評価の概要が示され報告書としてまとめられたところであります。

今の説明に関しまして、皆様からの意見ありませんでしょうか。

○濱委員

49ページの(8)「幼児教育並びに高等学校教育との連携について」厚岸町では、幼児教育、その後に小学校、中学校の義務教育があって、高等学校は道立学校なんですけど、今年度においては小中高合同のゴミ拾いの授業をやっているんですね。

小学生、中学生、高校生が1グループになって班をつくってのゴミ拾いなど、連携活動がみられるので、すごく良い取組だと思っております。

その中において、厚岸町においては、バスの定期券（交通費の補助）という形で、高等学校に対して援助をしているんですけど、先日、中学校3年生の進路希望調査を見せてもらいましたが、翔洋高校を希望している子が町内でも少ない現状の中、何とか唯一の厚岸町にある高等学校を無くしてはいけない。その為には、どうしたら良いか真剣に考えて行かないとなかなか入学定員通り人が集まって来ない現状なので、うまい取組がないかと考えてまして、何とか高等学校とうまく連携しながら、町として独自の取組ができていければと思うんですけど、良い方向が見つけにくく、高校の要望なんかを聞きながら、どういう取組ができるか検討する機会や場所を町で設置できないかと思っています。

## ○議長（町長）

私から若干関連したご意見を申し上げたいと思います。

今、地元唯一の高校であります。翔洋高校についてのお話がありましたけれども、私も大変頭が痛い課題としてこの問題に取り組んでいるつもりであり、また、唯一の学校を無くしてはならないという気持ちでございます。

実は、厚岸の中学校、皆様も御存知かと思いますが、卒業者の53%が釧路です。

地元に残るのは半分以下ということでございまして、翔洋高校も定数に満たない中で学校運営がなされています。ただ、唯一お助的な事を言いますと、調理コースというのがあります。これが極めて人気が良い結果でございまして、先の料理大会におかれましても、全道で1位。残念ながら全国では賞に入らなかったわけですが、そういう実績がございまして。

また、就職口といたしましても100%でございまして。ただ、残念な事は、地元合う就職の場所が無いという残念な結果も出てございまして、厚岸町といたしましても、厚岸町雇用推進対策連絡会議というものを設置しながら、地元には是非採用していただきたいということで、お願いをいたしている所でございまして、これまた、ミスマッチでございまして。と言いますのは、御承知のとおり厚岸町の職は技術的な場所が多いわけでありまして。

一方、生徒は、ホワイトカラー事務的な仕事を望む生徒がほとんどであるという結果が出ていますのでございまして、こういう諸々な事を考えますと、これは町行政の責任もありますけれども、この問題に取り組んでいかなければならないと思います。

たしかに教育は自由であります、また、受ける場所は自由であります。

ただ、先般、私が北海道にお願いいたしましたのは、このままでいくならば、正規にある学校は、全て生徒数が減少し、廃校せざるを得ない。ですから学区を元に戻してくれと言いますのは、釧路は釧路一つであります。昔は学区外制度がありまして、釧路に行けるのは数%しかいなかった。その結果、地元の学校に入学するという事があったわけでありまして。

私としては、昔のような学区を狭めた中で、地元の高等学校を守るようにしてもらいたいと、今から半年前でございますが釧路での北海道教育委員会との協議の中で、私からはそのことを踏まえ、強く訴えた話もあります。

そういう訳で、唯一の翔洋高校であります。その対策をどうしたら良いのか、この場で色々と協議をしていただければと考えております。

## ○濱委員

調理師コース、海洋資源科があり凄く特色のある高校なんでね、厚岸翔洋高校は。

昨日教育委員会があつて、進路指導を見たら美唄市の高校には看護科があるんですよ。厚岸からも美唄市の看護科がある高校を受験希望している子が居ることは、たぶん高校によっては、この辺では調理士免許が取れる高校は厚岸しか無いわけですから、厚岸の中学生が美唄市の看護科をわざわざ進路希望するということは、たぶん調理とか特徴のある学科があれば、地方からでも受けに来る子がいるんじゃないか。そ

れがうまく伝わっていないんじゃないかって思うんですよね。

三笠高校は、同じ調理のある高校ですごく倍率（人気）があって、生徒が集まると聞いたことがあるので、そういうことを考えたら、美唄は札幌の方から近いという距離的な事もあるんだけど、札幌方面でなくても道東やその近辺を宣伝すると、そういう希望する子が少しでも増えるんじゃないかと思うし、翔洋高校の親と話していたら、今の高校1年生で漁業をしたくて埼玉から来ている女の子がいて、しかも優秀で寮に入ってる子が居ると話をされていて、うまく宣伝や高校の特徴とか良いものが伝われば、一人でも多く興味を持ってもらえる人が出てくるんじゃないかと思うんですよ。

ただ、高校にだけに頼っていたら、今みたいな感じなので、うまく町の方でバックアップして、広げれる方法があれば少しは違うのではと感じました。

### ○議長（町長）

今の話は、新聞でも紹介しましたがけれども、そういう実態も現実に出てきていますので、寮の話ですけれども、昔は男子寮でしたが、今は女子でも入れるように改良しましたので、環境は整っているんですが、なかなか来ないという状況も出ているようですから、これをどう乗り越えていくかという課題もあります。

現状としては、特に厚岸の場合は湖南湖北地区で橋を持っているものですから、どっちかという湖南地区の人達は、同じ行くんだったら汽車で行った方が良いと言うことなんですが、現実には、子供も親も大変なんですね。釧路まで行くとなると。大体朝6時半の汽車で行かなければ間に合わない。

それともう一つは帰りクラブ活動もできない、やっている人もおりますけれども、そうすると最終で帰って来なければいけない、夜8時半頃の釧路駅から到着の厚岸駅は親の迎えの車でいっぱいです。親も大変だと感じているんですけれども、子供さん方も8時半頃に帰ってきて朝の6時半ですから、5時頃から起きて準備をしなければならない状況にあるわけですね。

その点は、地元にある高校に入れば、そういう苦勞はいらないでしょうけれど。

### ○濱委員

先程、町長が言った、釧路の学校には数%しか行けませんでしたよね。そうなるのかなり絞られるんで、厚岸に残っている子は多かったという現状はあるんですけど。

そうなる厚岸に行く子は多くなるんでしょうけれど、子供達はどう思うかと考えたなら、中々「うん」と言えない。

子供達の希望が優先になるので、それよりは地方から特色ある学科で人を集めれないかと言う気もするし、たぶん子供達の中では新しい人と触れ合いたいという希望もあるんじゃないか。昔みたいに人数が多い時代は別だけど、今は1クラスで、ずっと保育所から同じメンバーが中学校まで上がって、高校もまた同じかって思ったら、新しい友達を増やしたいとか、色々な考えがあって違う学校に行きたいと言う子も中にはいると思うので、なんとか高校を充実させたいと思ったら、少しでも多くの方に興味を持ってもらえる事を、広げて行ければ良いと思います。

### ○議長（町長）

大変難しい課題ですけれども、今、唯一の高校でございますので、少子化を迎える中での存続をどうしていくか。町といたしましてもバスの助成をしたり色々と地元の高校として残したいということで、クラレンスの高校に派遣して英語を学んで来るとか、色々と他に無い方法で町も協力しているんですけど、この問題は、一つの問題として取り上げていく。

その他、何かございませんか。

（意見なし）

### ○議長（町長）

それでは、続きまして最後になります「(3) 学校図書館活用教育事業について」を提案させていただきます。

説明をいただきます。

### ○事務局（教育委員会指導室長）

■「(1)説明・協議事項(3) 学校図書館活用教育事業について」

配付資料3により、学校司書の役割・現状について説明

### ○議長（町長）

ただいまの説明に関しまして各委員から何かお尋ねありますか。

### ○田辺委員

先日の教育委員会でも話題になりまして、今、指導室長の方から説明いただいたんですが、現状の中で見ると、やはり今の学校図書室の利用状況は、こちらの期待する程ではない。

そこには、学校図書室の中の蔵書とか構造とかそういった部分もあるんでしょうけれど。やはり問題となるのは、子供達にその読書のおもしろさとか、「こういった部分がいいんじゃないの」とか、子供達がそこで色々と相談できるとか、そういったマンパワーがなければ中々難しいだろう。それが一番大事ではないかという認識に立っています。

法律の中で司書教諭の位置づけもあるわけですから、本来であれば司書教諭の数を増やして、道教委あたりが増やしてくれば良いんでしょうけれども、それが本当なんでしょうという思いもあるんですが現状は中々難しい。

現状は、真龍小学校が司書教諭を置いているんですが、それも兼務。実際には担任をもって色々生徒指導をやりながら一人の人間がそちらの方に従事できない現状にある。

そういう状況にあって、マンパワーを確保していくのであれば学校司書は当然必要ではないだろうか。それで色々な設備や図書とかを、子供達に勧めて行けるだろう。

説明の中でもありましたが、読解力の向上というのは当然、学力の向上に繋がって

くるのは明確に言われてきておりますし、子供達の生活態度これら健全な方向に向かわせる意味でも、図書室利用の中で色々ふれあう中で、効果も期待できるだろうと思います。

厚岸の場合情報館という立派な利用度の高い図書室がある。情報館はまちづくりの中でも大きな位置づけを示しているわけですから、厚岸町の教育の柱の中に、読書活動の活発な厚岸町教育なんだと言うような、厚岸町教育の柱としてなりうるのではないかと思います。

そうした中、教育の部分において厚岸町からも御配慮いただければと思っております。

教育委員会委員の全体的な考え方としては、やはりこの学校司書、いわゆるマンパワー（人）の必要性というのは全体的にどうしても必要。そのことによって高めていくことができるんだらうという認識は一致しておりますので、当然、財政的な問題もあるんでしょうけれど、その辺の部分御配慮いただければと、よろしくお願いします。

### ○議長（町長）

そこで、私から実態をお聞きいたします。

今、お話あったとおり厚岸町情報館は、高い評価をいただいております。また、利用度も高い。すばらしい情報館であるという私も理解をしておりますが、この情報館と学校図書との関係はどのように考えているのか。どうもっていこうとしているのか。

もう一つは、湖南地区にある社会福祉センターにある図書館の利用度。今、非常に高いという相対的な話がありましたけれど、実態はどうなっているのか。この2点をお聞きしたい。

### ○事務局（指導室長）

1点目についてお答えさせていただきたいと思います。

学校図書館の現状を先ほどお話ししたんですけれども。これからとなると、電算化というのを一緒に提案させていただいております。

学校にある物、情報館にはたくさん蔵書があります。それがうまく学校の中で使われるように、今は人の手で紙を見ながらやっているんですけれど、きちっと電算化していく中で、どの学校にどう物があるのか全て分っている。

ここの学校にこういう物が足りないから、こういうふうに置こう。又は増やして行こう、又は増やさなくてもこっちからもらえれば、こちらに移せると言った事で、電算化を進めるというのは図書館司書のホストになっております。今ある物を有効に結ぶ役を司書、そのために学校司書は何処に何があるのか本をきちんと注視していかなければなかなか機能は果たせなということになりますので、学校や情報館に資料が何処に何があると分っていながら、それを学校としては、子供に影響する。そういう役割となります。

### ○事務局（生涯学習課長）

2点目。情報館分館の関係



平成27年度と平成26年度を比較しますと。利用者数は3名ほど減っていますが、利用冊数は1,000冊位増えている状況にあります。平成27年度からは5月の連休もオープンしている関係で、利用冊数は増えているという状況にあります。

平成27年度は2,684名が利用して14,642冊を貸出している状況であります。

#### ○議長（町長）

もう一つ、移動図書館は？

#### ○事務局（生涯学習課長）

移動図書館は25か所を回ってます。利用者数は横倍。本の貸出数は12,519冊となっております。分館と同じ位の貸出し冊数となっております。

#### ○議長（町長）

今、各委員もお聞きのとおり、連携といいましょうか。情報館あり、移動図書館あり、それから分館あり、更には学校図書がありという中でのこの連携をどのようにしていくか。より効果ある学校図書を含めて、よそもやっているから制度として努力目標であるけれども、よそもやっているからやるんだと言う事ではなくて、やはり読み書き含めて、効果ある役割というものが大きいという認識をどういう方法で、周知されてるのか、たぶん親としては情報館の方を優先すると思うんですよ。同じ図書館としての役割を考えれば。厚岸は色々な図書活動ができていると思うんですよ。図書館バスも新しくしたし、そういう面も今、御意見が出ましたので、それに対する予算が必要であれば、また色々と要求してもらおうということになると思います。

#### ○濱委員

学校の図書館というのは、私の時もそうだったんですが、古くて入りにくいイメージがあったので、一人の専門家として先生方は日々の業務で大変なので、子供の図書委員がいて図書の貸出しだけの機関なんですけども、本は少し増えるけど、何十年前からあるか分かんないような本がずらっと並んでいるような場所なら、子供達も借りる気分にならないと思うんですね。

ですから、少しでも専門家の人がいてきれいに整理して、少しでも子供達に本に興味を持って、その中から将来的に学校の図書館でこの作家の本一冊読んでおもしろかったから、その作家の違う本がまた読みたいと思ったので、調べてもらったら情報館に何種類もあるようだとか、そのように自分が興味を持つ取っ掛けには、学校図書に一冊しかなかったのが結構重要だったりすると思うんです。

それに取っ掛けにくい状況が今の学校図書の現状だと思いますので、子供達が本に興味を持ってもらう取っ掛けとなる機会を、なんとか厚岸町で作れないかと感じます。

#### ○議長（町長）

現場について最近まで居た酒井教育長どうですか。

## ○酒井教育長

まず、今の小中学生が二十歳になった頃、あるいは社会に出る頃、どういう人材が求められているのか、実はこのように考えるようになったのは、先日の町職員採用の面接をさせていただいた時に思ったことなんです。これからの社会、何でもかんでも機械がどんどん入ってくる。そういった中で、社会人として今の子供達が社会に出た時に、どういった力を身につけてなければならないのか、そういう観点から、教育の観点からまちづくりというものを考えさせられたわけです。

あちらこちらで言われてますけれども、思考力、判断力、表現力がこれからの人材に欠かせない能力になる、これは間違い無いと思うんです。

思考力、判断力、表現力これ全部言語の力なんですね。私たちは口で言葉を出さなくても実はものを考えているときは言語で考えている。とすると子供達に今、学校教育の中で思考力、判断力、表現力という大枠ではなくてもっと焦点化していったら何なんだと言ったときに、言葉の力、言語力だと思うんです。

それを学校の中で、本を借りれば良いという話ではなくて、子供達が何冊本を借りたから良かったねじゃなくて、やはり学校教育の中で、子供達の言語力を育てる学習活動が正常にきちんと行なわれなければならない。

そのためには、指導室長が先ほど現状を申し上げましたけれども、司書教諭が配置されたからじゃOKか？全然OKじゃない。やっぱりマンパワーがそこに介在しないと、子供と図書（読書）を結ぶそこに人が介在しないと、町長おっしゃる効果的な教育というのがなかなか進んで行かない。

私は学校教育の中に、あるいは子供の意識の中に、どう読書活動、言語活動、そういったものを位置づけるかということが、将来社会に出て今求められている力を発揮して、社会で活躍する人材を育成する根底にあるのは言語能力だと考えております。

## ○議長（町長）

実は去年東京からある人が来まして、厚岸小学校に渡辺文庫というのがありますね。その関係者が来たんです。

皆さん渡辺さんという方は御承知だと思いますけれども、厚岸小学校出身にして、そしてこの方が偉くなりまして、三和銀行の頭取になって池田勇人さんの所得倍増論を提案した人なんですよ。

その方が我が母校に寄贈したいということで、渡辺文庫というものを作ったんです。

その関係者が去年来まして、それを見に行っただけなんです。そしたら、まあ、大変な状況になっていた。せつかくの行為を無視するというような話をしていたものですから。今、学校図書としての問題が出たので、利用も低いんじゃないのかと言う気もしたんですけども。

厚岸町には情報館もある。分館もある。移動図書もある。学校図書もある。たくさんある中でどう整理して学校図書を育てていくかというようなことも教育委員会として、考えて行かないといけないじゃないのかと。

どちらかという、どういふわけで司書というか分らないんだけど。常に図書館に居る人は、司書と言われるんだけど、我々には理解できない。

どちらかという、今まで司書と言ったら、本の貸し借りが大きな役割で、こういう本がありますよとか、ああいう本がありますよとか、言うような話はあまり聞かない。

ただ、貸出しをするのが役割の様な、司書がいけないから資格だけは持っていると言うのが、大半の様な気がします。

今、田辺委員から話し有りましたとおり、そういう司書の事も含めて、やはり重要性というものを、学校図書館の重要性なり、その他情報館のあり方というのが重要であるかと思えます。

### ○田辺委員

今のままの学校図書館なら、本当に存在意義がかなり低くなってしまって、子供達が本を読むような状態になっても途切れてしまう状態になっているので、濱委員が言ったように、少しでも子供に興味を持たせるような、もう少し図書館をきれいにするのもそうだし、子供達に「この本を読んでみない」とか本を勧めたり、それをやってくれる体制ということがこれから学校の中で求められるんだろう思われます。

厚岸の子供達は基礎勉強は良いんですけど、応用の方になると学力がちょっと落ちてくる。そういう所からも影響があるのかと思われる。

情報館も親が行ったりなんかするのは良いけれど、子供がなかなか今の中でも、親が車で一緒に情報館へ行こうという家庭というのはある程度限られてしまう部分がありますので、子供達が少しでも一人で図書の方に興味を持てる体制をやるとすると、学校の中で放課後や昼休みにちょっと図書室へ寄るといようなことが簡単にスムーズにできるといったような教育体制が一番望ましいのだろうと感じました。

### ○議長（町長）

それぞれの意見がありましたので、学校図書のあり方の為に検討いただいて、よろしくお願ひしたいと思います。予算面について何かあれば要求していただければと思います。

### ○議長（町長）

以上が議題として考えておったのですが、「(4)その他」ということですが、今年も残りわずかとなりまして、いよいよ来年を迎えるわけですので、振り返ってみて、来年は教育委員会はこうありたいとか、教育はこうあるべきだという、各委員さんからお話があればと思いますので、私の左側から田辺委員からお願いします。

### ○田辺委員

先ほども説明有りまして、平成27年度の教育委員会事務の評価をいただいております、教育事務評価会議3人の委員さんの総合的な評価と致しましては、まあよくやっている方ですと、お褒めの評価をいただいたんですが、社交辞令的なものも踏まえてるのかとその様な考え方の中で、褒めるからもっともっとこれからも頑張れよと

いう意味合いも込めて評価していただいているんだろうとっております。

各学校関係もこの評価にありますように、それぞれ先生方業務多大の中で頑張ってきております。そういった中で、しっかりと教育委員の方も受け止めながら全体的な教育環境を整えていくよう知恵を生かして行かなければならないと改めて感じております。

新体制の中で、学校教育現場の方で非常に強い明るい新教育長。新制度の中での新体制となりましたので、そのような情報もそれぞれいただきながら教育委員会としての考え方をしっかり進めてまいりたいと考えております。

### ○濱委員

新教育委員会制度がいよいよ本番。厚岸町が教育の先進地になるような形で、どんどん新しい施策を打ち出して、厚岸町が教育の町だと声を出して言えるような厚岸町になっていければと思っております。

### ○平良木委員

新体制の中での初めての会議なんですけれども、教育委員会で議論した内容と今日と比べますと、実際に若狭町長の生の声（意見）を聞くことで、教育委員会の中だけで話しているのとは違う考えができて良いなと考えました。

始まったばかりで2ヶ月なんですけれども、子供がまだ小さいんですけど、意外と塾なんか行っている時に、真龍中学校はあんなに頭が良い子がいっぱい居るのって、塾の同級生の人達に言われたりすることがあるんですね。そう言われますと厚岸町民として非常にうれしく思うので、こういう積み重ねを継続していけるように、私達も協力してがんばりたいと思いました。

### ○森脇委員

先ほど言えなかったんですけれども、学校司書について非常にすばらしい事だと思うんですね。私も情報館が大好きで子供と行くんですけれども、学校に司書が居るか居ないかで、子供達にとって情報館は敷居が高いとは言いませんが、親が連れて行ってくれないと行けない場所ですので、図書室に司書が居たら、子供達は広い視野で本を選べるようになると思うんですね。

学力の向上には絶対本は必要だと思うので、是非、学校司書を置いていただけるよう切に思います。

いつも思うんですけど、少し話が変わるんですが、町の発展にとって学力は絶対必要だと思っているんですけど、子供達が一生懸命がんばって学力が向上することを外の世界、この辺だと釧路とか札幌なんですけれども、そっちの方に一生懸命求めて行ってるんですね。それはしょうがないことなんですけれども、でも、町から出て行ってしまわないで、何が町に必要なのかいつも私考えるんです。

5年前に翔洋高校ができた時には、もう少し学力がすごく高かったと思うんです。だんだん下がってきているように思うんです。就職先も今の5年前の卒業生は、道職員に受かったり、教育大学に入っていたりしたと思うんですが、だんだん下がっていく

ということは、やっぱり、子供達の能力は学力が底上げされてきているのに下がっていくということは、学校側の努力も必要ではないかと最近思うんです。

学力の向上は、イコール考える力がある人材を育てることだと思うので、町の発展には絶対必要だと思っていて、あと、何が必要かと言うと文化的な意識の向上と学力の向上はセットだと思っているんです。

私ももっともっと考えて行きたいと思っているんですけど、人口の減の話をはかろうたびに、いつも将来何十年先どういうふうにして行ったらいいのか、今後も町長を中心として、考えて行かなければならないことかなと最近教育委員をさせていただいて思っています。

町に一つ無い物があるとしたら、文化的な文化会館のような専門的な施設が無いんですよね。町民を魅力的に思って町に帰って来たいとか、色々なアイデアが生まれる町とすると、これから投資的に必要な物もあると思うんです。町長を中心に考えて行けたらなと思っています。

### ○酒井教育長

私は旅行が好きで日本各地に行くんですけど、目的は食であったり自然であったり古い建物であったりというのがありますけれど、結局は何が旅から帰ってきて思い出として残るかという、その土地土地でちょっとした短い会話であっても人と人との会話だと思うんですね。そこでその土地の印象が大体定まってくる。後で思い出すのも、あそこに居たあのおばあちゃんとかこんな話をしたとか、その土地と一緒に残って心に残る。

つまり、厚岸の外から来る人間も厚岸の中にいる人間も、人と人との関わりという底の部分が、まちづくりの根底にあるんだろう。これは教育が大きく担わないとならない部分なんですけれども、それで「賢い子供」「健やかな子供」「心豊かな温かい子供」、どういう子供を目指すにしても、やはりそこに人が介在しないと、効果的な成果には繋がらない。これは極論かもしれませんが。

そういう意味で、翔洋高校の問題もそうだと思います。ハード面色々金銭的な支援色々ありますけれども、今の小中学生が翔洋高校の生徒達の姿を見て、憧れを持てるような翔洋高校でなければいけないし、翔洋高校の生徒にならなければいけない。

つまりそこに、人と人との繋がりという部分を教育の中でもっともっとこれから大事にしていかなければいけないんじゃないかと思います。先程の司書の話も、同じものとして捉えています。

### ○議長（町長）

各委員の御意見を承ったわけでありまして。

私は教育と言うのは、学力だけではないと思っています。

「知・徳・体」三位一体となった人材を育てることが必要とであると考えております。

先程、森脇さんからお話がありましたけれど施設の問題これも大事です。特に文化

芸能厚岸は弱い。森脇委員の旦那さんは吹奏楽で一生懸命頑張っていた。

また、真龍中学校が頑張っていた。そういう現在を考えれば、施設も無いんじゃないかということで、色々予算面含めて協議を致している所でございます。

ですから「知・徳・体」と言うものを名指した厚岸教育のあり方というものをこれから皆さんと一緒に作り上げて行かなければならないとそのように考えているわけでございます。

また、つい最近の話としてスポーツ部門で厚岸出身者の生徒が頑張ってくれている。

特に北海高校が全国大会で準優勝まで行ったというのは、厚岸出身の二人の生徒が居たからこそということで、また、スケートでは佐藤綾乃が全国（全日本選手権）の3位に入っているというような結果が出ている。そういう優秀な子供が育っているわけでありますので、それを皆さん方が夢として、誇りとして持てるような、やはりこれは一つのスポーツですから、今言った学問においても作っていかねばならないだろうと考えております。

先輩として先ほどお話しした厚岸小学校から渡辺さんを輩出した郷土でございますので、そういう点を考えますと、いかに教育委員会が大事になってくる。

やはり、そこで現場で働く指導者、学校であれば学校の先生、団体であればその指導者が、いかに指導していくかという結果が必ず良い成績になっていくというものであろうと思っておりますので、これからもまた総合教育会議でざっくばらんな話をしながら、予算については私の責任ですので、一つ原課としても、先ほどお話ししましたけれどもこういう事業をやりたい、ああいう事業をやりたいと言う考えを持っていただいて、関係原課も頑張っていたきたい。

以上、私からの総まとめのお話をさせていただきました。

年末控えております。どうか皆さんも元気で良い年を迎えまことを心から御祈念申し上げます、本日は終わらせていただきたいと思います。誠にご苦労様でした。

#### ○司会（総務課長）

以上で第1回目の総合教育会議を終了させていただきますが、できれば次回は、教育行政執行方針の素案ができた段階で、この総合教育会議の中で、色々協議をさせていただければと考えておりますし、また町政執行方針の中での教育分野の部分もでございます。これらの素案ができた段階で、この総合教育会議で色々委員さんのご意見をいただきながら、提案できればと思っております。